

令和3年度 さいたま市立片柳小学校 学校運営協議会による評価書

さいたま市立片柳小学校
学校運営協議会
会長 三浦達雄

学校運営協議会による評価（協議会の委員の意見等）

(1) 学習面

- ・国の学力調査では、算数で向上が見られたようだが、市の学習状況調査が実施されなかったので学校全体での客観的な評価は難しいところもある。ただし、コロナの影響がある中でも年間の学習内容についてはほぼ実施されたようなのでよかった。
- ・タブレットPCを活用した授業が進められているようだが、授業参観や学校公開で保護者や地域にも使用している様子を見せてほしい。オンライン授業のおかげで、登校を控えていた児童の学びを止めなかったのはよかった。
- ・タブレットPCの毎日の持ち帰りは、重量から考えて児童の負担になるので心配。

(2) 生活面

- ・小学生・中学生の交流をもっと活発にさせていきたい。
- ・児童は、学校内でのあいさつはできているようだが、地域の方へのあいさつは不十分だと感じる。
- ・小・中9年間を通しての教育を。イベントなど一緒にできるようになるとよいと思う。
- ・「いじめは絶対にいけないこと」の児童の回答が、すべて「そう思う」になることを望む。

(3) 教職員について

- ・「楽しい学校生活」を送れた理由として、教職員との信頼関係の高まりがあったことも大きい。
- ・教科担任制について課題も多いと感じるが、中学校からも情報を提供していきたい。

(4) その他

- ・教職員の働き方改革も推進しながら「子どもの姿が見える行事」「ふるさとに愛着のもてる取組」の継続と発展に力を入れていきたい。
- ・地域の高齢者との交流の機会が無くなってしまっているので、機会を改めて作っていきたい。
- ・チャレンジスクールの在り方について、改めて理解を求めたい。
- ・学校としての取組や方針について、もっと地域や家庭にアピールできるとよい。
- ・小・中で絵画展を実施してはどうか。
- ・交通指導員さんが3名登録されたり、防犯ボランティアさんが増えたことは喜ばしい。

学校運営協議会による評価を受けた学校の対応

- 「個別最適な学び」の実現のため、ICTを活用した授業について来年度も十分に研修の機会を確保し、教員の指導力を向上させていく。あわせて、タブレットPCを使った授業を保護者や地域に積極的に公開していく。
- 教科担任制について、効果的な運用を実践を通してさらに研究・推進していく。
- 引き続き、生徒指導上の諸問題に関して、児童の気持ちに寄り添い、保護者と連携しながら解決に向け努力していく。
- 地域の特徴について学ぶ学習を様々な学年で行い、また地域の施設へ出掛けての交流を図る活動を年間行事として位置づけることで、地域行事等に積極的に参加する児童を育成していく。
- 中学校との連携を強化し、9年間を見据えた児童生徒の育成の工夫をしていく。

校長氏名 五十嵐 公明